

神戸薬科大学図書館における 学習支援に向けた活動について

小山 淳子、中平 典子、畑 公也、児玉 典子

1. はじめに

神戸薬科大学図書館は、1948年に専門学校から大学に昇格する際に卒業生や教職員の寄贈図書により蔵書も整備され、独立館として設立された。神戸薬科大学年史によれば「閲覧室は女子大らしくピンクの壁画で囲まれ、吹抜天井から銀色のシャンデリアが下がっているといった校内では宝石函的存在であった」¹⁾とあり、当時の薬科大学には類例のない立派な図書館だったようである。1967年1号館の新築とともに1号館に移転して、独立館から併設館になった。

本学図書館は、教授会で選出された図書館長と委員4名および図書館課職員1名で構成された図書館運営委員会により運営され、さらに、図書館長の諮問機関として図書選定委員会をおき、図書の選定にあたっている。図書館業務として貸出、複写、リクエストサービス、レファレンスサービス、相互貸借などを行うとともに、様々な取り組みを行っている。大学図書館であることから、教育・研究に対しての支援への取り組みが重要であると考え、大学の理念に基づき、明文文化された収集方針に沿ってカリキュラムに対応しつつ、利用者が深い専門と幅広い教養を身につけることができるような資料をバランス良く収集するよう努め、教育研究活動に不可欠な学術情報を、来館せずに研究室で、いつでも迅速に入手することを可能としてきた。

最近、インターネットの急速な普及、日本の社会構造の変化など、図書館をとりまく状況の変化に伴い、レファレンスサービスの枠組みが大きく広がってきている。情報拠点としての役割が

* 2014年12月26日受理。

期待されている図書館において、レファレンスサービスにどう取り組むかが、いまや最重要課題であると言っても過言ではない。レファレンスサービスは「直接サービス：情報提供と利用案内（利用指導）」と「間接サービス：レファレンスコレクションの整備」がある。²⁾ 1年生の前期に情報リテラシーの講義があるが、情報リテラシーとは、「情報が必要なとき、それを認識し、効果的に発見、評価、活用する」ことである。図書館における情報リテラシーとは、様々な種類の情報源の中から必要な情報にアクセスし、その情報を正しく評価し、活用する能力であることより、情報リテラシー能力を学生に身につけさせることをめざした指導が大学図書館にも要求されている。しかし、情報リテラシーの問題点として、学生は、①情報に対して受動的である（情報を能動的に集めようとししない）、②情報を集めるだけで満足・安心する（情報を集める事が目的になっている）、③情報が正しいかどうかの選別が正しく出来ない、などがある。

今回、利用者教育およびレファレンスサービスの一環として、「図書館そのものの利用方法あるいは図書館にある文献・情報の探し方を指導・援助する活動と情報そのもの、あるいはそれが収められている文献の紹介・提供」と情報リテラシーの指導をめざし、新1年生に対し図書館ガイダンスを行い、情報化時代の中で自ら早く正確に情報を得て活用できる学生を育てるための神戸薬科大学独自の方法を検討した。

2. 神戸薬科大学図書館の現状

神戸薬科大学図書館は、事務局と6つの研究室が所在する1号館の3、4階の東端に位置し、総延面積は1,291㎡、収容可能冊数は約11.8万冊である。開架式図書館であるため、書架スペースの確保が課題であるが、資料の電子化を進めながら定期的に点検・整理を行い、積極的に資料の除籍に取り組んでいる。2014年3月末現在の所蔵数は、図書107,661冊（和書78,270冊、洋書29,391冊）、学術雑誌550種（国内雑誌229種、外国雑誌321種）、視聴覚資料2,706点である。

図書館の職員構成は、現在専任職員1名、業務委託スタッフ常勤5名で、全員が司書資格を有する。2011年4月から導入した業務委託は、図書館運営委員会で委託する業務と委託しない業務の分別を行い、徐々に委託業務の範囲を拡張しながら人件費の削減と業務の効率化を図ってい

表1 図書の受け入れ状況（冊）

	図書 受入数	総記	哲学	歴史	社会 科学	自然 科学	技術	産業	芸術	言語	文学
2009年	1,543	71	44	66	148	994	27	12	42	18	121
2010年	1,633	68	43	81	191	979	35	8	33	32	163
2011年	1,731	71	35	114	161	1,075	58	12	28	27	150
2012年	1,467	34	54	52	168	849	82	20	43	44	121
2013年	1,385	44	58	44	148	795	44	11	59	68	114
5年間の 合計	7,759	288	234	357	816	4,692	246	63	205	189	669
全体に占 める割合		3.7%	3.0%	4.6%	10.5%	60.5%	3.2%	0.8%	2.6%	2.4%	8.6%

る。委託スタッフの専門性を活かしてサービス内容の向上を図り、レファレンスサービスや各種ガイダンスの実施に努めている。

図書については、シラバスに掲載された指定参考書（教科書以外に講義の内容を補足発展させる教員指定の学生専用図書）を完備して学習支援に努めている。また、「社会薬学」や「在宅医療」など、薬学に関する時宜を得たテーマを設定して継続的に資料を収集し、専門的な知識を深める一助となるよう整備している。（表1）特に、6年制薬学教育の内容に沿って医療薬学系の資料の充実に努め、「医薬品情報」では、常に薬学臨床教育センターの教員と連携して相互に選書を行い、資料の収集に努めている。外国雑誌については、教員と大学院学生を対象に毎年購入希望調査を行い、その結果について図書館運営委員会で審議し、利用者のニーズに沿った適切な選定をしている。数年かけて学術雑誌の電子化を積極的に進めてきた結果、2013年には、購読中の外国雑誌の9割以上の電子化を達成した。現在利用可能な電子ジャーナルは、コンソーシアム契約（10種）分も含めると6,720タイトルとなり、教育研究活動に不可欠な学術情報を、来館することなくいつでも迅速に入手することが可能となった。また、2008年と2013年には、主要大手出版社の電子ジャーナルバックファイルを購入してさらに利便性を高めることができた。データベースについても、購入希望調査の結果を反映させながらトライアルを実施し、医療系データベースを追加するなどの見直しを行い、現在7種類の有料データベースを契約している。

開館時間は、平日 9 時～20 時、土曜日 9 時～16 時（長期休暇中の平日は 9 時～17 時）であり、昼夜開講制大学院開講日の土曜日は、19 時 30 分まで開館している。また、入退館管理システムを活用して、閉館時より 21 時 30 分までの無人開館を実施している。2013 年度は、入館者数が前年度と比較して約 2 割、貸出冊数が約 1 割減少した。これは、非来館型利用へのシフトとともに、2013 年 3 月に竣工した 6 号館 2 階ラウンジ（691㎡・369 席）が自習スペースとして活用され、利用が学内に分散したと考えられる。図書館システムについては、2013 年夏に機器更新の時期を迎え、図書館情報管理システム（LIMEDIO）を Windows 版から Web 版へ移行し業務の効率化を図った。蔵書検索（OPAC）では、CiNii や NDL（国立国会図書館）との連携も強化され、絞込検索の機能も充実し使いやすくなっている。また、利用者用パソコンの入れ替えも行い、最新の環境を整えて快適な操作性を提供することができるようになった。以降、利用者用パソコンのソフトウェアのバージョンアップを委託業務に組み込んで、定期的なメンテナンスに努めている。

3. 図書館ガイダンスの方法

思考力・判断力・表現力等をはぐくむために文章や資料を読んだ上で知識や経験を基に自分の考えをまとめ書くといった学習活動や探求活動が有効であるという観点から、最近、小・中学校で、児童・生徒が課題を決め、図書館を利用したり、聞き取り調査をしたりして結果をまとめる「調べ学習」といわれるものが盛んになってきた。³⁾ 調べ学習においては、様々な資料から必要な資料を探し出すための技術やスキルを学ぶためだけではなく、その情報の中から主体的に目的にあった情報を選び取り、それを分析・評価して情報を再構成、検証し発表していくことが重要である。これに対応した考えで、大学図書館におけるレファレンスサービスの中の直接サービスの利用案内と情報提供を新 1 年生に行い、図書館を利用しやすくするとともに、問題解決の方法を考える時の一助としてもらおうという考えの下、図書館ガイダンスを行っている。

3-1 情報検索を目指した図書館ガイダンス

図書館利用案内として、1 年次前期科目「早期体験学習」に役立つよう特に新入生を対象に図

書館ガイダンスを行ってきた。さらに、2年次科目「総合文化演習」は教科書や参考書といった類いのものは特に指定されることが少ないことなどから、いろいろな情報源を必要とするため、担当の教員と事前に打ち合わせを行い、テーマやニーズに合った情報検索のガイダンスを行っている。

図1 (a) は、2014年度「総合文化演習」の現代の音楽というテーマで、ゼミ発表をするための情報検索方法として、図書館ガイダンスを利用したときのレジュメである。

図1 (b) は、2014年度の1年次前期科目「生命科学入門」が授業で学ぶ課題の解決のために、図書館ガイダンスを利用したときのレジュメである。図2は必要な資料を実際に図書館で探すときの手順を図示して、分かりやすく簡潔に表したものである。実際には、図1～3を学生に1枚ずつ配布し、それに従って、説明をしている。

ゼミ発表をしよう!

2014.4.22
神戸薬科大学図書館

2014年度 総合文化演習 (ゼミ)

発表を成功させるプロセス!

①情報の探索と収集
STEP1: 調べたいことを明確にする
STEP2: 二次資料を選ぶ
STEP3: 二次資料を使う
STEP4: 一次資料を入手する

②情報の整理と分析
③情報の加工と発信

一次資料: オリジナル
二次資料: *一次資料を探すための資料 (ブックページなど) *データベース

STEP1: 調べたいことを明確にする	
テーマ[シラバスより]	音楽
キーワード	「音楽」、「ミュージック」、ジャンル名、人名、国名、時代名・・・
発表テーマやキーワードを探すためのヒント	<p>日経BIP記事検索サービス(日経BIP) 日経BIP社が発行する雑誌のバックナンバー記事も、オンライン上で、テキスト形式(本文のみ)またはPDF形式(記事全体・雑誌イメージそのまゝ)でダウンロードできるサービスです。</p> <p>辞書・事典類: 平凡社 世界大百科事典 第2版(4巻開巻30)など 辞書や事典で別のキーワードを探すこともできます。世界大百科事典は「Yahoo!辞書」に含まれています。</p>

STEP2: 二次資料を選ぶ	
図書・雑誌を探す	<p>大学図書館を探す → C/Nii Books(国立情報学研究所) → 本学OPAC、中研大学図書館OPACなど</p> <p>公共図書館を探す → 国立国会図書館サーチ(国立国会図書館) → NDL-OPAC、兵庫県立図書館OPAC、神戸市立図書館OPAC、カールなど</p>
雑誌論文を検索・入手する	<p>日本の雑誌記事 → NDL-OPAC(国立国会図書館)</p> <p>日本の学術論文 → C/Nii Articles(国立情報学研究所)</p> <p>日本の科学技術全分野 → J-Dream III(ジャー・サーチ)</p> <p>日本の医学論文 → 医中誌Web(医中誌Web) メディカルオンライン(メディカルオンライン)</p>

a

資料を探そう!

2014.5.7-9
神戸薬科大学図書館

授業課題解決の第一歩 2014年度 生命科学入門(児玉先生)

●問題解決までの流れ

1.テーマ	「大腸菌O157感染症の症状・感染機構・治療・予防について」
2.事前調査 テーマについての情報を集めよう!	<p>・テーマについての知識を広げる * 自分の手元にある資料 * 辞書・事典: 薬科学大辞典、Ketobank * 一般向け資料: 日経BIP記事検索サービス 大学版</p> <p>・広げた知識を整理して、何がわからないかはっきりとさせる</p>
3.問い設定 キーワードを 探そう!	<p>・わからなかった語句は何か ・どんな分野の事柄を調べているのか</p>
4.関連文献の調査 より詳しい資料を 探そう!	<p>課題解決のために必要な資料</p> <p>◎ 図書 教科書・参考書・その他専門分野の図書 ◎ 雑誌 医療関係者向け雑誌・その他専門分野の雑誌 △ Web上の情報 個人のHP、Blog、Wikipedia、知恵袋...</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>△の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに書き換わってしまう ・誰が書いたかわからない ・根拠に基づいたものか、ただの感想かわからない。 </div> <p>GoogleやYahoo!は多くの人がアクセスするページが上位に来る仕組みになっています。</p> <p>Web上の情報は信頼できるかどうか自分で見極めなければなりません。自分で判断できない場合は、最初から信頼できるとされる資料(教科書や参考書、専門分野の図書や雑誌)を使いましょう。</p> <p>※信頼できる情報の例: 官公庁の統計データや学会のHP</p> <p>どんな図書があるか探すには? 神戸薬科大学図書館の資料を探す→OPAC(所蔵検索)</p> <p>どんな雑誌記事があるか探すには? 広く深く全分野→C/Nii Articles 広く深く医療分野→医中誌Web</p>
5.アウトライン	↓
6.執筆・校正	↓

b

図1 「総合文化演習」と「生命科学入門」の学生へ渡すレジュメ

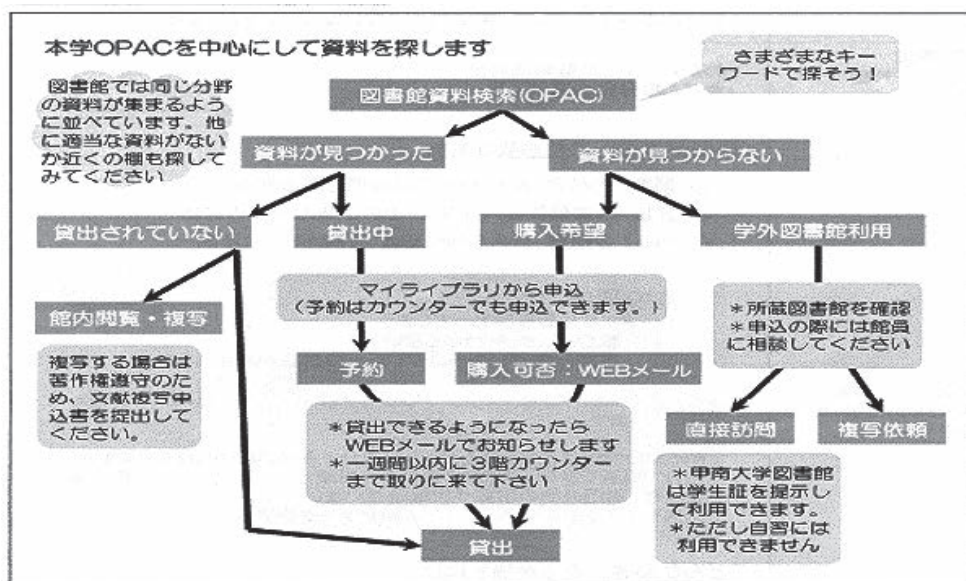


図2 資料入手の手順

総合文化演習 ガイダンス「ゼミ発表をしよう！」

概要	
日時	2014年4月22日(火) 2時限
場所	11号館コンピュータ演習室A
ゼミ	短ゼミ
テーマ	音楽
対象	2年生 26人
ガイダンス担当	山岸
配布資料	レジュメ1枚、Ciniiガイド、プチ情報探検講座チラシ
ガイダンスの流れ	
DVD上映	「情報の達人」 第2巻 0総論
発表を成功させるプロセスと情報、資料の種類について	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ発表に必要なプロセスを挙げる。 ・情報とはなにか？に触れ、情報の種類を挙げる ・情報のうち、文書資料について代表的な例とその特徴を挙げる ・文書資料について一次資料と二次資料という考え方を提示する 以上 Power Point
プロセスに基づき、情報の探索と収集を4つのSTEPで実施しながら説明する	<p>STEP1: 調べたいことを明確にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大まかな概念や関連することを把握し、キーワードの設定や発表の組み立てを行うヒントとして日経BP記事検索サービス、辞書・事典類を紹介する。 ・日経BP検索：検索語「音楽△心理学」 <p>STEP2: 二次資料を選ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各データベースの紹介を行う(レジュメ参照。HP→その他便利なリンク集→総合文化演習用と照らし合わせて説明) <p>STEP3: 二次資料を使う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ciniiを実際に使ってもらいながら説明する ・検索のコツ(AND検索・OR検索)の説明をする <p>【検索手順】</p> <p>①Cinii Books 内容検索</p> <p>「音楽(21570件)」→「音楽△心理学(156件)」</p> <ul style="list-style-type: none"> *19番目「最新音楽の科学が～」→本学OPAC→OPAC画面消す→一覧へ戻る *5番目「音楽の起源」→「カール」(図書館の設定：神戸市)→中央図書館別途、購入希望や取寄せの説明→カール消す→一覧へ戻る <p>②-1 Cinni Articles キーワード「サウンドスケープ△施設」</p> <ul style="list-style-type: none"> *5番目「高齢者施設～」→詳細画面：情報の見方の説明→Cinii オープンアクセス(ピンクのCiniiガイド説明)へ戻る <p>②-2 Cinni Articles キーワード「音楽療法△認知症」</p> <ul style="list-style-type: none"> *1番目→詳細→神戸薬科大学トライアル→画面を印刷ORメモして書架へ <p>STEP4: 一次資料を入手する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OPACを実際に使ってもらいながら説明する(検索語「音楽」) 検索結果の見方など ・マイライブラリの説明
参考資料の紹介	カテゴリ検索の説明「大学生活に役立つ情報」：ゼミ発表のヒントに
演習	自分の設定した発表テーマについて、本日紹介したデータベースを利用して実際に検索してみる。(5分程度予定)
その他	音楽に関する資料(図書、雑誌、視聴覚)や発表の仕方、レポートの書き方などの資料現物を手にとって見てもらう。(約40分程度持ち込む)その場では出来ないが、気になる資料があれば後ほど図書館で閲覧、貸出できる旨を伝える。(その日一日だけ、カウンター付近にそのまま置いておく予定)

生命科学入門 情報検索ガイダンス

概要	
日時	2014年5月7,8,9日 各回約60分
場所	11号館コンピュータ演習室A
授業	生命科学入門(児玉先生)
対象	1年生 約270人
ガイダンス担当	
配布資料	レジュメ
ガイダンスの流れ	
導入：レポート作成のプロセスと作成に必要な情報、資料の種類について	<p>レポート作成という問題をどう解決していくか、概要を理解してもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートとは何か、また作成にどのようなプロセスが必要か挙げる。 ・情報とはなにか？に触れ、情報の種類を挙げる。 ・情報のうち、文書資料について代表的な例とその特徴を挙げる。 また、「学術情報」という側面を認識してもらう。 ・文書資料について一次資料と二次資料という考え方を提示する。 ・二次資料についてデータベースとは何か説明をする。 ・それぞれのプロセスに対応し、図書館で何が出来るか案内する。 <p>以上 Power Point と DVD「情報の達人」を利用</p> <p>*レポート作成の手順(一例)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 論文のテーマを決める ② テーマについての情報を集める(事前調査) ③ 問いを設定する ④ 問いを解決するための情報を収集する(関連文献の調査) ⑤ アウトラインを考える ⑥ 執筆・校正 ⑦ 出典を表示する <p>*レポート作成のプロセスと図書館 事前調査、関連文献の調査、資料の利用、取寄せ</p>
データベースの使い方と入手について	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書資料の調査と入手：OPACの使い方 OPACの説明、実際に検索を行う、検索結果の見方、書架案内(写真) ※AND検索、OR検索の説明をする 2. 雑誌資料の調査と入手：医中誌Web? データベースの説明、実際に検索を行う、検索結果の見方、入手 「電子ジャーナル」に触れる
出典の表示について	表示例を示す。
参考資料の紹介	カテゴリ検索の説明「大学生活に役立つ情報」：レポートの書き方などの資料一覧

図3 「総合文化演習」と「生命科学入門」のガイダンス

3-2 生命科学入門の情報検索ガイダンス

生命科学入門の授業最終日に行うジグソー法⁴⁾を用いた協調学習を効率よく運用するために、生命科学入門用の図書館ガイダンスをコンピュータ演習室 A で、2 クラス毎に計 3 回行った。まず、データベースを使った文献検索の方法や図書館蔵書検索 (OPAC) を使った資料の調査と入手方法について説明した。特に最近の学生は Web 情報に頼りすぎる傾向があるため、情報の種類とそれぞれの特徴を説明しながら、多くの情報の中から信頼できる情報を見極めることの重要性を伝えた。また、事前にテーマに関する図書を各机に数冊ずつ置き、系統立ててまとめられている図書資料を身近に感じてもらえるように工夫した。さらに、実際にその図書を手に取りながら、参考文献の確認や出典の表示方法を学習させた。図 4 は図書館ガイダンスで学生に配布した課題プリントである。生命科学入門でのジグソー法による協調学習に精通できるよう、本ガイダンスにおいても、協調学習を一部取り入れ、エキスパート活動及びジグソー活動を行わせた。小テーマをエキスパート課題とし、大テーマをジグソー課題とした。学生はエキスパートおよびジグソー活動を通して、わからなかった語句

生命科学入門 課題1 提出期限:5月16日(金)15時 提出場所:9号館3F提出ボックス	
提出者: 組 番 氏名	メンバー: 組 番 氏名
* 小テーマと2つの小テーマを統合させた大テーマについて書いてください。	
大テーマ	大腸菌O157感染症の症状・感染機構・治療・予防について
<small>注意: 専門用語(キーワード)をできるだけ多く使用すること。キーワードは必ず内容を理解しておくこと。 事実(根拠)のある内容で、論理的に書くこと。 「～です。～ます。思う。ちなみに、～みたい」ではなく「～である。～と考える。しかし、また、～に類似した」を使う。</small>	
1. 小テーマ	①大腸菌O157感染症の症状・治療・予防について ②大腸菌O157感染症の感染機構(侵入経路、病原性の発現)について
* ①か②のどちらかに○をしてください!	
2. 事前調査	↓
3. 問い設定	↓
4. 関連文献の調査	↓
5. 小テーマのアウトライン	① ②
* 小テーマ①と②の2つとも書いてください(1つは提出者、もう一つは他のメンバーから教えてもらう)	
6. 大テーマについて(執筆・校正)	大テーマに対して他のメンバーとディスカッションして①と②を統合させてください。
7. 出典の表示(参考文献・巻、ページ)	
<small>参考キーワード: 大腸菌O157感染症、原核生物、原核細胞、真核生物、真核細胞、リボソーム(70S、80S)、抗菌薬(細胞壁合成阻害、タンパク質合成阻害、核酸合成阻害、細胞膜障害)、腸管出血性大腸菌、グラム陰性桿菌、腸管出血性大腸菌、毒素、O抗原、抗原素、下痢、嘔吐、腸管内細菌叢(その)、ホスホマイシン、キノロン系薬、コンビリンク治療、選択毒性、侵入、増殖、生育、感染、RNA、DNAなど</small>	

図 4 事前調査課題

や、参考として提示されたキーワードを調べながら問いを設定し、その問いを解決するための情報を収集させた。このように、課題を解くために必要な知識を、図書館ガイダンスにより得た文献検索能力を用いて、事前に調査させ会得させた。この文献検索能力により、対面授業で学習した知識（情報）を深く理解させ、学生の持つ能力を高めていくように仕向けて行った。

3-3 アンケートの質問に対する肯定度の計算方法

$$\begin{aligned} \text{肯定度} = & \text{「そう思う：\%数」} \times 2 + \text{「どちらかと言えばそう思う：\%数」} \times 1 \\ & + \text{「あまりそう思わない：\%数」} \times (-1) + \text{「まったくそうとは思わない：\%数」} \\ & \times (-2) + \text{「よくわからない：\%数」} \times 0 \quad (\text{回答率から計算}) \end{aligned}$$

最高値：200 最低値：-200

3-4 図書館ガイダンスに関するアンケート

平成26年5月7日（水）～9日（金）にかけてクラス別に実施した「生命科学入門」を含めた図書館ガイダンスについて、アンケート調査を実施した。今後のガイダンスや課題解決学習取り組みの参考にするため図書館に関連する15問の質問と、文献調査関連（主に生命科学入門を想定）の5問の設問を作成した。（図4）できるだけ多くの学生からの回答を得るため、1年生の情報リテラシーの最後の授業時に時間を少し調整し、インターネット上のアンケートに答えてもらった。回答者は297名であった。

図書館ガイダンスに関するアンケート調査 神戸薬科大学図書館	
5月7日（水）～9日（金）にかけてクラス別に実施しました図書館ガイダンスについて、アンケート調査を実施します。今後のガイダンスや課題解決学習取り組み研究の参考にしたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。ご回答いただいた内容は全て統計的に処理し、本調査の目的以外に使用することはありません。	
【図書館ガイダンスについて】	
【質問1】ガイダンスの内容は、課題解決のために参考になりますか。	
	①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそうとは思わない ⑤よく分からない
【質問2】必要な情報を探すことができる能力は身についたと思いますか。	

	①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそうとは思わない ⑤よく分からない
【質問3】 ガイダンスを受けてこれからの調べもの学習のアプローチ方法が変わると思いますか。	
	①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそうとは思わない ⑤よく分からない
【質問4】 今回のガイダンスを今後の授業で役立てることが出来ますか。	
	①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそうとは思わない ⑤よく分からない
【質問5】 今後の学習において図書館を活用していきますか。	
	①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそうとは思わない ⑤よく分からない
【質問6】 課題解決のために、よく利用した情報は何か。(複数選択可)	
	①図書 ②雑誌・新聞記事 ③ Web 上の情報 ④先生の意見 ⑤友人の意見
【質問7】 質問6で「Web 上の情報」を選択した方にお尋ねします。 Web 上の情報の取得には、何を利用しましたか。(複数選択可)	
	①ガイダンスで紹介されたデータベース(蔵書検索「OPAC」・日経BP記事検索サービス・医中誌 Web) ②その他のデータベース ③検索エンジン(Google など) ④その他()
【質問8】 ガイダンスで紹介されたデータベース(蔵書検索「OPAC」・日経BP記事検索サービス・医中誌 Web など)をまた利用してみようと思いますか。	
	①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそうとは思わない ⑤よく分からない
【質問9】 資料を引用した際の「出典」の記載はできるようになりましたか。	
	①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそうとは思わない ⑤よく分からない
【質問10】 学生同士で相談しながら課題を仕上げる方法は、学習のために役に立つと思いますか。	
	①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそうとは思わない ⑤よく分からない
【施設・設備等について】	
【質問11】 入学前に、学校や自治体の図書室、図書館を利用したことがありますか。	
	①はい ②いいえ
【質問12】 今回の課題を仕上げるために利用した場所はどこですか。(複数選択可)	
	学内 ①図書館 ②パブリックルーム(11号館2階) ③ラウンジ(6号館2階) ④テラス(5号館3階) ⑤自習室 ⑥その他() 学外 ⑦自宅 ⑧下宿 ⑨寮 ⑩その他()
【質問13】 ネットに繋がるパソコンを持っていますか。(スマートフォン、タブレットは除く)	
	①自分専用を持っている ②家族と共用している ③持っていない
【質問14】 あなたが持っている携帯電話の形態は?	
	①ガラケー(従来の携帯電話) ②スマートフォン ③その他()
【質問15】 学内にパソコンを利用できるスペースがもっとあれば良いと思いますか。	
	①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそうとは思わない ⑤よく分からない

【文献調査について】	
	文献調査とは、論文やレポートを書くために必要な情報や文献を調査・収集することです。例として、ガイダンスで「生命科学入門」の課題を調べたことを想定してお答えください。
【質問16】 試験対策（記述問題）のために文献調査は参考になりますか。	
	①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそうとは思わない ⑤よく分からない
【質問17】 専門単語（キーワード）の内容理解のために文献調査は参考になりますか。	
	①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそうとは思わない ⑤よく分からない
【質問18】 学力や学習力の向上に文献調査は役立ちますか。	
	①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそうとは思わない ⑤よく分からない
【質問19】 文献調査は興味深いですか。	
	①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそうとは思わない ⑤よく分からない
【質問20】 文献調査は将来の役に立ちますか	
	①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそうとは思わない ⑤よく分からない

図4 図書館アンケート

4. 結果及び考察

4-1 アンケート結果と考察

情報リテラシーを受講している学生数297名のうち、全問ではないが297名が回答した。アンケート調査の結果を表2と図5、6に示した。表2中の質問に対する回答が肯定的あるいは否定的であることの度合いを肯定度として表した。否定回答者数が多いときは、マイナスの数値が出ることになる。図5からわかるように肯定度が最も高いものは、質問15で「学内にパソコンを使うスペースがもっとあればよいと思うか」で151.9、次は質問10の「学生同士で相談しながら課題を仕上げる方法は、学習に役立つか」で140.3であった。質問5や質問20も比較的高く、120以上あった。今回の図書館ガイダンスをしたことにより、図書館のいろいろなデータベースを利用することの有用性がわかるようになったと思う。肯定度が最も低い値は質問19の「文献調査は興味深いか」と質問3の「ガイダンスを受けてこれからの調べもの学習のアプローチ方法が変わるか」というもので、67.4と71.7であった。最も低いものでも60を超えており、すべてがプラスの値であることより、どちらでもないという意見も少なく、図書館ガイダンスは行う価値があると考え

表2 図書館ガイダンスに関するアンケート調査の結果（1）

質問	%	そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう 思わない	全くそう とは思わない	よくわから ない	肯定度	回答者数
質問1		27.4	52.7	14.2	1.4	4.4	90.5	296
質問2		23.0	55.1	14.9	1.7	5.4	82.8	296
質問3		24.7	47.3	21.6	1.7	4.7	71.7	296
質問4		30.5	47.5	15.3	1.7	5.1	89.8	295
質問5		47.1	41.1	9.8	0	2.0	125.5	297
質問8		39.2	38.5	17.4	1.7	3.1	96.1	288
質問9		37.5	38.9	15.7	2.0	5.8	94.2	293
質問10		54.9	37.3	5.4	0.7	1.7	140.3	295
質問15		67.0	24.4	6.5	0	2.1	151.9	291
質問16		32.8	46.8	14	1.4	5.1	95.6	293
質問17		38.4	46.6	9.2	1.4	4.4	111.4	294
質問18		36.1	50.7	7.8	1.4	4.1	112.3	294
質問19		23.4	47.5	20.7	3.1	5.4	67.4	295
質問20		45.1	44.1	4.4	1.4	5.1	127.1	295

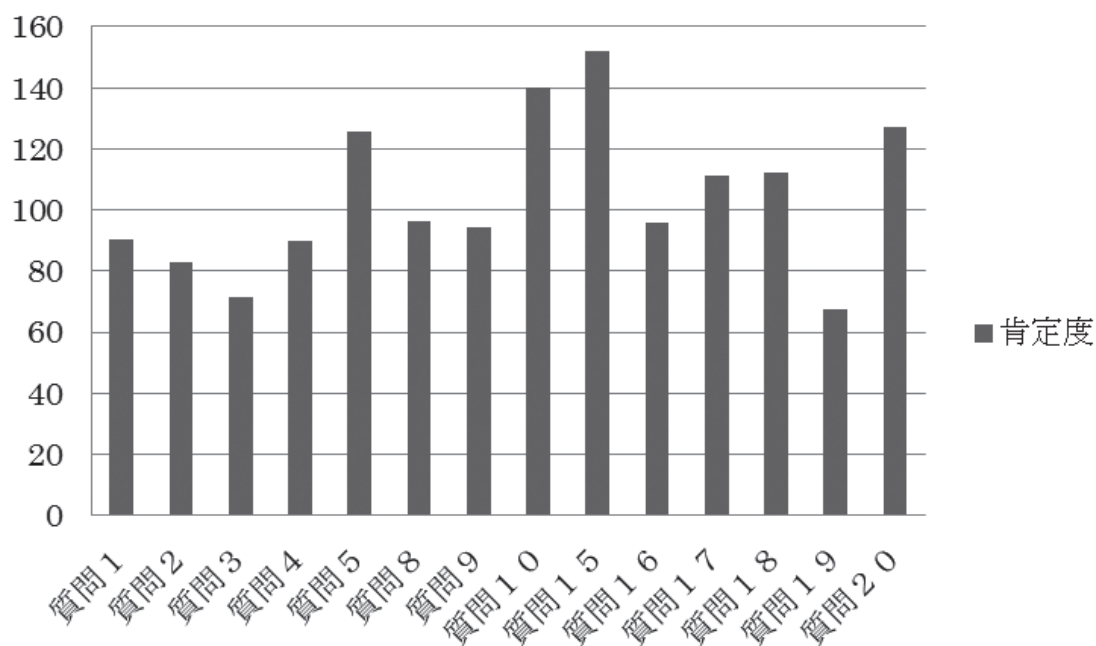


図5 質問に対する肯定度の比較

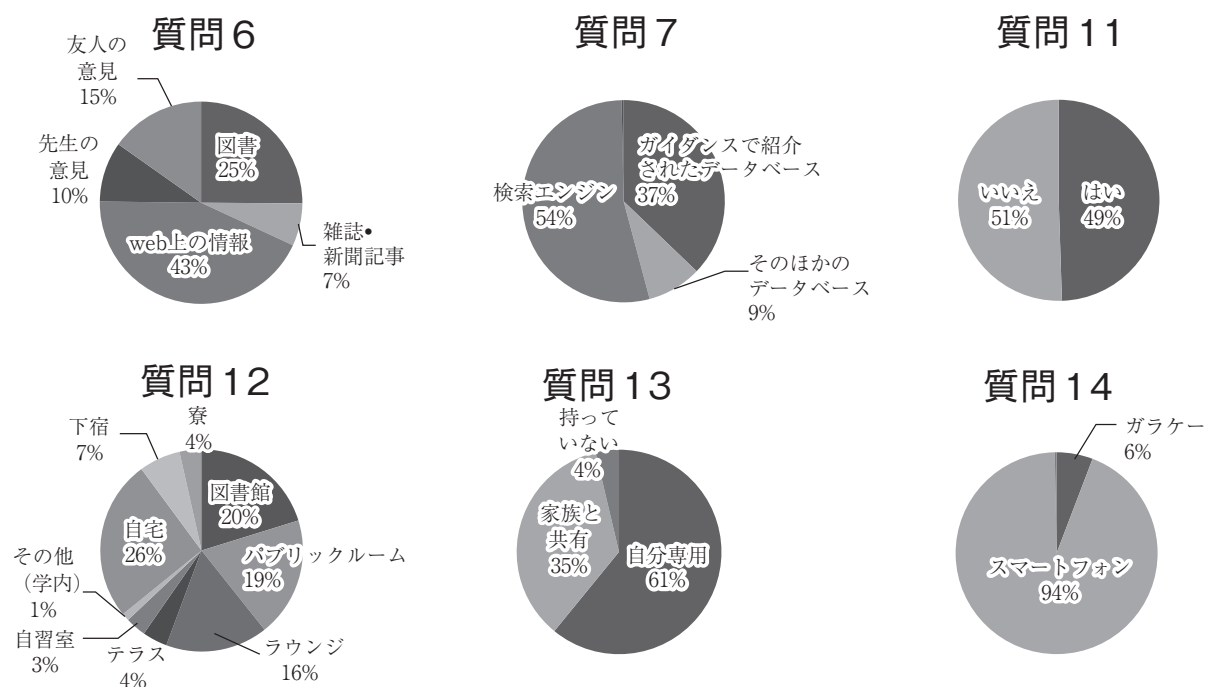


図6 図書館ガイダンスに関するアンケート調査の結果（2）

る。

入学前に学校や自治体の図書館を利用したことがあるかという質問ではほぼ半々の答えとなった。高校時代にあまり図書館を利用していなかった学生も大学では大いに利用して、役に立ててほしいものである。検索用の機器として、自分用あるいは家族との共用を入れると96%の学生がパソコンを持っており、スマートフォンは94%持っていることから、これからの学生は、単に検索できるのではなく、いかに効率よく良い情報を得てくるかが勝負の時代になってきたと言えよう。

5. まとめ

図書館をとりまく状況の変化に伴い、図書館はどのような業務を行っていくかが問われている。今までの図書館業務として、貸出、複写、リクエストサービス、レファレンスサービス、相互貸借などを行ってきたが、その中でもレファレンスサービスが大きな比重を占めていくで

あろう。レファレンスサービスの情報提供と利用案内（利用指導）の取組の一環として、様々な種類の情報源の中から必要な情報にアクセスし、その情報を正しく評価し、活用する能力を学生に身につけさせることをめざした指導が大学図書館にも要求されている。学生への情報リテラシーの指導の1つとして、新入生に図書館ガイダンスを行うことにより、図書館を大いに利用し、その中にある莫大な量の情報を自分の学習の問題解決に応用して欲しい。その一助となるよう、これからも色々な機会を見つけて活動していくことが重要であろう。

引用・参考文献

- 1) 足立利枝：「libraryめぐりー職場のプロフィール：神戸薬科大学図書館」、薬学図書館、1993、38（4）、p.314-317。
- 2) 全国効率図書館協議会：「2005年度 公立図書館におけるレファレンスサービスに関する報告書」、2006年3月。
- 3) 図書館振興財団：「早わかり！！図書館を使った調べる学習」、図書館の学校、2013夏号、p.6。
- 4) 児玉典子，小山淳子：投稿中，Libra, 2014

謝辞

図書館アンケートを情報リテラシー授業時にいただいた寺岡准教授、土生講師、前田講師、増田助教に深謝いたします。

付記（執筆者の所属機関）

小山淳子、中平典子、畑 公也、児玉典子（以上、神戸薬科大学）